

【瀬谷区】令和7年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和7年6月11日 9時55分～12時00分
場 所	瀬谷区役所5階 大会議室
出席者	<p>【座長】花上喜代志議員</p> <p>【議員：2名】川口広議員、久保和弘議員</p> <p>【瀬谷区：34名】山岸秀之区長、富永裕之副区長、 木村洋福祉保健センター長、 長井真福祉保健センター担当部長、 坂口堅章土木事務所長、 細川直樹災害対策担当部長（瀬谷消防署長） ほか関係職員</p>
議題	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度 個性ある区づくり推進費自主企画事業の執行計画 その他報告案件
発言の要旨	<p><令和7年度 個性ある区づくり推進費自主企画事業の執行計画></p> <p>【川口議員】冒頭に、山岸区長から御挨拶、所感も含めてお伝えいただいたが、改めて2年を切ったGREEN×EXPOの、局との連携についてお尋ねしたい。今後更に局との連携が必要になってくると思うが、区長が着任してから局との連携はどのように進んでいるか。</p> <p>【山岸区長】私自身としては、まず状況を知らなければいけないということで、局に説明に来てもらい、状況を把握するところからスタートしました。脱炭素・GREEN×EXPO推進局や都市整備局から最新の状況を聞いたりし、機運醸成や盛り上げに向けた局との調整を進めています。例えば、GREEN×EXPOに向けてのグッズ販売についても、今は市庁舎や東京のマルゼンに限られていますが、もう少し身近で購入することができないかななども含めて局と調整しています。全市で盛り上げていかなければいけない事業ですが、特に開催地元区として、局とも頻繁に連携をとっているという状況です。</p> <p>【川口議員】最新の情報が区長には共有されてくると思うが、職員とはその情報をどのように共有しているのか。</p>

【山岸区長】毎週、課長以上が参加する責任職会議を開催しており、その場を通じて情報を共有しています。その後、各課から係長や職員に情報が流れしていくという形をとっています。

【川口議員】特に、交通に関する情報や刷新された新しい情報もこれからどんどん出てくると思うので、地域に根差した区の職員とより深く、コミュニケーションをとってもらえるとありがたいと思っている。

【山岸区長】区として盛り上げていくためには、「まずは瀬谷区の職員から盛り上げていかなければならない」ということを私もよく言っています。区民の皆様に情報をお伝えすることはもちろんのこと、当然足元である区役所にも情報を共有して、一丸となって取り組んでいくことが大切だと思っています。

【川口議員】「機運醸成」というと、GREEN×EXPOの明るい部分が焦点に当たると思うが、開催地元区となると影の部分もそれなりにあるというのが、区民の皆様の本音だと思っている。その影の部分も理解しているのが、地域に根差した区の職員と思っている。その意味では、区の職員が知っている情報が一番信頼できる情報かなとも思っているので、単に、局からの情報を共有するだけでなく、区が把握している情報を突合させて、瀬谷区での真の情報として取り扱ってもらいたい。このことを要望しておきたい。

【川口議員】会議資料3ページ、「災害時のペット対策」について、今どういう状況になっているか。

【内木生活衛生課長】地域防災拠点における状況ということですと、全市的に一時飼育場所の設定を迅速に進めることをお願いしており、瀬谷区では、令和6年度中に15拠点全てで一時飼育場所が設定されました。また、令和4年度から配布している、一時飼育場所開設のためのスターターキットは10拠点に配布済みで、備蓄場所の課題はありますが、今年度中に残りの5拠点にもお持ちいただきたいと思っています。

【川口議員】ペットには、犬・猫以外にも小さな動物もいる。どこまで細かな対応ができるか。

【内木生活衛生課長】課として接点の多い犬、猫の飼い主さんには必要な対策をお話ししていますが、その他のペットの飼い主さんに対しては、情報提供の場が少ないので現状です。横浜市のガイドラインでは、飼い主に対し、ケージなどの用意や、実際に地域防災拠点の訓練等に参

加して状況を把握し、事前対策を進めていただくことをお願いしています。

【川口議員】対策は進んでいると感じるが、次の段階として、他のペットへの対応に少しずつ視野が広がってくると思うので、引き続き情報をいただきたい。

次に、防災に関して、GREEN×EXPOの開催期間中に大きな災害が発生すると、区民の皆様だけでなく、多くの観光客への対応も生じる。観光客への対応について、局と調整はしているのか。

【松田総務課長】開催期間中に災害が発生することもあり得ますので、総務局危機管理室とどのような課題があるのかを現在共有している状況です。

【川口議員】マニュアルがあるような話でもないが、迅速に対応しないといけない困難度が高いミッションだと思うので、様々な想定をしたうえで、対応を検討してほしい。

次に、8ページの大きな2番「動物愛護」に関して、犬の場合は、散歩をしている途中で飼い主同士がコミュニケーションをとることができるが、猫の場合は、家の中で飼っているので、飼い主同士のコミュニケーションが少なく、情報共有が難しいと聞いている。情報がなく悩んだり、問題を抱え込んでしまうことが心配されるので、例えば区役所など、大きな会場で猫の情報共有の場を設けてもらうと喜ぶ飼い主も多いと思う。前回の会議で猫の飼い主への積極的な情報提供についてお願いしたが、その後、何か進展はあるか。

【内木生活衛生課長】「高齢犬・猫との暮らし方セミナー」を共催している瀬谷区獣医師会との定例会議が5月にあり、猫の飼い主さんのニーズや効果的な啓発などについて先生方に相談しました。また、猫の飼い主さんが、適正な飼育方法や災害対策、市が開催するセミナーなどのイベント情報にアクセスしやすいように、瀬谷区役所のWebサイト内の「ペット・動物」というページを改修しました。9月の動物愛護週間ににおける啓発でも、猫の飼い主さん向けの内容を充実させていきたいと計画しています。

【川口議員】前回の会議を踏まえ、対応を進めていただいたと思っている。他の多くのペットの飼い主にも、安心と安全を届けられるようにしてもらえると有難い。

次に、11 ページの「区民ボランティアによる花苗の育成と緑化推進」について、瀬谷区が花を植える活動を推進していることが広まっていると感じており、今後、GREEN×EXPO が近づくにつれて、更に多くの花が区役所に集まってくる可能性があると思う。その集まってきた花の整理はどうのようにしていくのか。

【正田区政推進課長】花については、この緑化推進事業にかかわらず、例えば 13 ページにある「クリーンストリート事業」でも花苗を植えたり、GREEN×EXPO 関係の事業では個人でも参加できるような形で、花をいっぱい植えたりという取組を進めています。福祉なども含めた様々な事業と連携しながら、多くの区民の皆様が参加してもらえるような形で広げていこうと考えています。

【川口議員】既に行っている事業を含め、花の数が結構多くなってくる可能性もあると思う。そうすると、植える場所に困ったりする可能性もあるかと思うし、いただいた花をどこにどうやって活用するのかなども含めた整理が必要なタイミングになってきたという気がしている。花が無駄にならないような取組をお願いしたい。

次に、19 ページの「瀬谷っ子体験事業」に関して、「わくわくワーク」は今年度どんな形でやっていくのか伺いたい。

【政木地域振興課長】農業、工業、商業コースを設定し、多様な分野で活躍する区内の企業、団体にご協力いただくことで、子どもたちに瀬谷への理解、愛着を深めてもらうとともに、将来について考えるきっかけになればということで実施しています。今年度は、農業コースにキミドリファームさんによる園芸体験と、セヤミツラボさんによる養蜂場見学を新たな講座として設定しました。GREEN×EXPO の開催も踏まえて、環境学習の視点を持って、キミドリファームさんでは、アップサイクル植木鉢を用いた園芸体験を、セヤミツラボさんに関しては、環境指標生物であるミツバチの特性について学ぶ内容を含めました。これにより、未来を担う子どもたちが持続可能な社会の実現に关心を持てるようになればと考えています。

【川口議員】参加者からの感想だとか、フィードバックについては受けているか。

【政木地域振興課長】講座が終わった後に、すべての児童の方々にアンケートを取っています。その際に、「学校に戻った際に、『こういった経

験をしたよ』というのを伝えてください」と伝えているので、学校でも、自分の経験が豊かになったということを伝えていただいているものかと思います。

【川口議員】満足したというところで留まるのではなく、横への展開や、更に言えばGREEN×EXPOとの連携ということをより重視して取り組んでもらえればと思う。

次に、36ページの「瀬谷の逸品事業」に関して、瀬谷の逸品をGREEN×EXPOでどう扱うかについては、重要な項目になると思っている。今の段階で何かアイデアがあつたら教えてほしい。

【政木地域振興課長】GREEN×EXPOの開催1年前にリーフレットの改訂を行う予定です。GREEN×EXPOの会場内でどのような展開ができるかについては未知数ですが、30ページの「歴史・文化振興事業」の中で実施する「瀬谷まち歩きリーフレット」との連携を考えています。これは、来場される区民や区外の方々に、気軽にまち歩きをしてもらうきっかけづくりのためにリーフレットを作成するのですが、このリーフレットに、瀬谷の逸品を紹介する内容も掲載して、多くの方の目に触れることで瀬谷の魅力として広く発信していきたいと考えています。

【川口議員】今は「知ってもらう」ための取組かと思うが、その逸品を食べていただく、味わっていただくというところまでつなげていかなければならぬと思っている。瀬谷のご当地の食べ物を海外の方に食べてもらう機会は、これからテーマパークができたとしてもなかなかないかもしぬないので、今の段階から味わってもらうための仕組みづくりに尽力してもらいたい。

最後に、真夏のイベントに関して、最近非常に暑くなってきて、特に日中から夏祭りの準備をしている方々の体調が心配。他の区の話を聞くと、夏祭りの時期を6月にずらしたり、9月の秋まつりと一緒に行ったりといった工夫をしている区が出てきている。瀬谷区においても、夏のイベントに関して、何か工夫していることや情報があれば教えてほしい。

【政木地域振興課長】地区によっては、この暑さを踏まえて、時期や開催時間帯をずらすというような工夫をしているところもあると認識しています。また、熱中症対策の一つとして、区役所ではミストファンの貸出しを行っています。

【川口議員】 区にとっても、地域との大切な交流の場であると認識しているが、今、この状況は命に関わるような話だと思っている。準備している側からすると、(過酷な暑さだったとしても)「中止にする」ということはなかなか言いづらい。昨今の状況を踏まえ、区民の安心と安全を考えて、場合によっては「中止」という決断を後押しするはある種、区の役目もあると思う。誤解の無いように言うが、中止したほうがいいと言っているわけではない。現場の雰囲気なども感じた上で、区から提案をしてもいいのではないか。安心と安全を守る観点から、夏のイベントの取扱いについて、慎重に対応してほしい。

【久保議員】 先ほど、少し話もあったが、瀬谷区の区長として着任して、意気込みや思いを伺いたい。

【山岸区長】 区民の皆様、自然にも恵まれていて、GREEN×EXPOを契機としたインフラ整備などをはじめ、これから更に発展していく可能性を感じる瀬谷区長に着任できて大きな喜びを感じています。職員にも伝えていますが、地域から信頼される区役所を目指して、自分自身、先頭に立ってやっていかなければいけないと思っています。地域にも積極的に伺い、コミュニケーションをとることによって、地域の方々から色々な声を聞けると思います。職員とのコミュニケーション、地域の方とのコミュニケーションをしっかりとっていきたいと思っています。

【久保議員】 議員とも足並みをそろえて取り組んでいければと思う。

資料2ページには、予算の柱として、「安全・安心の住みやすいまち」「地域のつながり・支え合い」といった項目が掲げられている。今、高齢化により、地域のコミュニティの在り方について問われている中で、健康、福祉というのが非常に着目されている。そのうえで、区民の皆様がいかに健康に外出できる環境を整えるかというのが非常に重要なと思っている。しかし、市長の肝入りの政策の一つとして、高齢化によって、免許の自主返納をした方に対して、地域交通を無料で使えるという政策を掲げているが、瀬谷区においては地域交通の利便性向上に、もう少し工夫がほしいと思っている。その中で都市整備局が広報よこはまに「移動しやすい、移動しやすさを高めるまちづくり」と載せているが、そこには、瀬谷区の東野地区についても明記されているので、瀬谷区は局と連携してきちんと進めていくのだと思うが、局との連携、地域交通の区の取組について確認したい。

【正田区政推進課長】地域交通については、区役所と一緒に都市整備局が事業を支援していくというような形になりますが、そもそも地域の皆様の意向があつて初めて手続きできるものになるので、こちらから「どうでしょうか」と紹介はさせてもらいますが、地域の方々の意向を確認しながら進めていくことになります。地域支援チーム等での地域との対話の中で、地域のお困り事の内容を確認しながら、支援メニューのひとつとして、必要に応じて、寄り添いながら支援していきたいと考えています。

【久保議員】区民の皆様の要望を聞いている肌感覚としては、要望は出しても進まないという感触を持っている方が多い。宮沢や阿久和東にも交通空白地域がある。これらの課題の解消に向けて、市がタスクフォースを立ち上げたのだと理解している。ひとつ心配しているのは、ルートを設定する際に、連合や自治会がまたがっていることも多いので、誰がそのルートを確認するのかということ。また、確認にあたってのサポートをどうするのかということ。今回、地域交通はプッシュ型支援という形で掲げられているので、局がプッシュしていくのか。または、区でグリップするということで区政推進課なのか。しっかり地域の声を聞く必要がある事業だと思うので、どのような整理になっているのかということを改めて伺いたい。

【正田区政推進課長】連合や自治会に加えて、区をまたぐことも考えられるが、一方で単一地区だけであれば、確認が取りやすく、導入に結び付きやすいという側面もあるかもしれない。そういうといったサポートも含めて、局と連携して行っていきたいと考えています。

【久保議員】地域の足という課題について、相鉄線の電車を今以上に増やすことは難しいだろうし、瀬谷区の場合で言えば、特に南北の移動に関しては、かなり大きな課題であると考えている。バスの本数によっては、交通空白地帯ではなくても、住民は不便を感じているというケースも少なくない。区役所として、この取組を常に後押ししていくことをお願いする。

次に、3ページ目には「体験型プログラム」や、今年度から「町の防災組織機能強化事業」ということで「絵本を活用した幼児向けの防災教育」が掲げられている。小さいころから様々なことに取り組んでいくことが大事かと思うが、今回のこういった取組の狙いについて伺いたい。

【松田総務課長】瀬谷区では令和5年度に区民意識調査を実施しました。質問項目には、防災の関係についてもありましたが、その結果、20代や30代の比較的若い世代の方々の防災意識、例えば在宅避難の認知度などが、年齢の高い層に比べると低いといった課題があることが分かりました。この世代は子育て世代でもあるので、今回、子ども向けの防災イベントとして実施する「体験型プログラム」を通じて、未就学のお子さんから小学生まで、楽しく参加してもらい、幼少期から防災に興味を持つてもらいたいという狙いがあります。また、絵本の取組についても、区内の公立保育園に消防局が監修した絵本を既に配布していて、子どもたちは興味をもって見ていましたという話も聞いていますので、少しづつではありますが、効果が出ているのではないかと考えています。

【久保議員】防災に関して、ある自治会の役員の方から、地域防災拠点や自治会での防災に係る取組の運営や担い手の確保が課題だったが、これは少しづつ乗り越えつつあると。そうすると、次には実際に役員になったときに何をやつたらいいか分からぬという質問があった。各役員の役割を紹介する動画があると勉強しやすいという声もあったので、市に聞いてみたところ、「よこはま防災e-パーク」という取組のひとつとして実施していることが分かった。このように防災意識が高まってきていく中で、区役所としてはどのようなことに取り組んでいくのか伺いたい。

【松田総務課長】地域防災拠点の取組と、それとは別に自治会町内会の皆様でも独自に防災組織を立ち上げてくださって、訓練なども行っていただいているという実情があり、とても有難いことだと思っています。こうした皆様に、「よこはま防災e-パーク」の取組などを、区連会を通じて消防局からお伝えしている状況です。また、総務課防災担当にご相談をしていただければ、訓練の材料の提示や、アドバイスもさせていただいている。

【久保議員】区としても後押しをお願いしたい。3ページの「災害ボランティアの支援事業」について、発災すると、ボランティアの方々に様々なことをやっていただくことになる。そのためには、平時から災害に備えての取り組むということが必要だと思うが、現状の課題について伺いたい。

【松田総務課長】年1回はボランティアの受け入れ方などの訓練を実施し

ています。一方で、実際に来ていただいたボランティアの方をどのように配置して、どのように具体的に機能させていくかについては、まだまだ課題があると思っていますので、引き続き検討を進めていきたいと考えています。

【久保議員】次に 15 ページの「子育て応援事業」の「もっとつながる！瀬谷の子育てネットワーク」で、令和 6 年度にアンケートを取ったという記載があるが、その結果は公表されているのか。また、アンケート結果からどのような課題があつて、どのように取り組んでいるのかについても伺いたい。

【深見こども家庭支援課長】アンケート結果については、ご協力いただいた団体には共有していますが、少し紹介すると、子どもが遊べる場所については、「困ったり悩んだりすることがある」が全体の 8 割でした。

「安全に遊べるか不安である」や「遊べる場所が分からない」というような回答が上位にありました。子育て中のしかり方やしつけ方についても、全体の 8 割は「困ることや悩むことがある」という回答で、相談については、パートナーや友人の方にするほかは、「ネットで調べて回答する」というような回答も上位にありました。その上で、「気軽に相談しに行ける場所がある」とか「メールや SNS で相談できるところがある」ということが情報を得やすい方法として確認できましたので、今年度事業として、ホームページや SNS を活用して、ニーズの高い情報を効果的に発信できるように、ホームページや SNS をつくる講座を開催したいと考えています。

【久保議員】市が子育て関係に前向きに取り組んでいる中で、瀬谷区においても、数年前の街並みと変わりつつあり、若い世代も入ってきていると思うので、遊ぶところや、施設を充実させることが必要だと感じている。

次に、24 ページの「ひとり暮らしの体験事業」について、発災時における要援護者の避難は市会でも議論になっているテーマであり、風水害に加えて、地震が起きた際の要援護者の避難のあり方についても取り組んでいるところ。今回、この事業は新規とのことで、障害のある方の自立を後押ししていくということだと思うが、発災時の避難の視点なども含まれているのかなど、この事業の狙いについて確認したい。

【佐藤高齢・障害支援課長】今回の事業は、防災というよりは、いわゆ

る 8050 問題に向けた取組として、高齢の親御さんと、知的障害や精神疾患のあるお子さんがいる世帯への支援を実施していきたいと思っています。特に障害の特性上、家族以外の方が関わることに不安や抵抗がある方、環境の変化が苦手な方がいらっしゃいますので、障害のあるお子さんを持つ親の心情としては、「自分が元気なうちはできる限り自分で面倒をみたい」とか、「家族以外に任せられない」という声もかなり聞きます。親が高齢になっても、サービスを利用せずに家族だけで抱えてしまうという場合も多々ありますので、親に不測の事態が起ったときに、親代わりとなって対応ができる方がいないこともあります。そのように、障害者の方自身の意思を尊重できないまま短期入所などを検討せざるを得ないような場面もありますので、そういう課題があると認識しています。そのため、親亡き後も住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、元気なうちから他者の支援に慣れていただくということで、障害者自身の意思決定や環境づくりを行っていきたいと考えています。

【久保議員】例えば、母親がひとりで障害のある子の面倒をみていて、自分がいなくなったらどうしようという話も聞く。8050 だけなく 9060 にもなってきていると思うのでしっかり取り組んでいただきたい。

最後に 32 ページ、GREEN×EXPO の機運醸成のひとつとして、新規で「みんなで花いっぱい瀬谷事業」とあるが、これについてどういったことを行うのかを確認したいのと、以前、環状 4 号線の瀬谷駅の大和側の踏切の陸橋から下瀬谷に向かって四丁目の交差点のあたりまで、歩道部分の植栽ますに花を植える取組を行ったことは承知しているが、この反対側、横浜甦生病院のある方についても取り組んでいく余地があるのではないかと思っている。「みんなで花いっぱい瀬谷事業」の現状と取組について、確認したい。

【氏家土木事務所副所長】昨年度は橋戸北自治会の皆様にご協力いただいて、試行的に道路の植栽ますを活用して花植えの活動を実施してきました。今年度は本格実施ということで、5 月の区連会において事業概要の説明をしました。今年度の主な取組、スケジュールとしては、6 月 16 日から花植え活動について参加してもらえる方々の講習を開始します。その後、参加者の皆様が花植えを行う植栽ますの調整を進めて、10 月頃に、花植えの配布、実施ができるように進めていきたいと考えていま

す。今回は、区内全域に対象を広げて、「花植えをやってみたい」という方々に参加していただきたいと考えています。

【花上議員】世の中が大きく変化し、縮小の時代に入ってきた中で、人口減少もはじまっており、その変化に区役所も対応していかなくてはならない。瀬谷区ができてから、人口は右肩上がりで、新しい家、団地、学校施設などもどんどん増え、それはすさまじい変化であった。それが徐々に落ち着き、変化に対して、区の職員は地域の声を聴きながら対応していると思うが、区役所の大きな役割は、まず命と暮らしを守っていくことが基本だろうと思う。消防だけでなく、福祉、医療という観点から、命を守るという点については、医師会や市病院協会の先生方などとの話し合いがしっかりと進められているとは思うが、現状の瀬谷区内の体制が整っているのかどうか、このあたりの区の認識を伺いたい。

【木村センター長】医師会・薬剤師会・歯科医師会の「三師会」の皆様との連携はしっかりとっています。具体的には、認知症の医療連携や、児童虐待の問題、起こりうる災害医療の対策について、検討会のメンバーとして貴重なご意見をいただいています。それから今、第5期の福祉保健計画の策定を進めていますが、そちらでも委員として入っていただき、様々な意見をいただいています。毎年夏場に実施している三師会との意見交換も今年度予定通り実施し、意見交換をしながらしっかりと連携をとれるよう図っていきたいと思っています。それから、区民の意見ということについても、福祉保健センター窓口でのご意見や、令和7年度からはこども家庭センター機能が新たに設置され、支援機能を充実させていくので、業務の工夫をしながら市民の声に応えていきたいと考えています。

【花上議員】三師会との連携がしっかりとれているということで安心した。コロナ発生以来、世の中は大きく変わって、いろんな方々の生活に影響を与えてきたという実態を私たちは見聞きしてきた。いまだにコロナの後遺症が社会に残っていると思うが、そういう相談がまだ寄せられているかどうか、今はもうほとんどなくなってきたのか、その点について伺いたい。

【山本医務担当課長】区民の皆様からのコロナの相談については、だいぶ聞かれなくなってきてます。ただ、産業医の先生方の中では、後遺症によって、前と同じように働けないといったような状況の社員さんが

いるという声を聞きます。瀬谷区内の企業でそういった話は聞いていませんが、そういった方がいるという状況を鑑みると、区役所の相談体制は引き続き保っていきたいと思います。

【花上議員】今後もしっかりと目配りをしてもらい、しっかりと対応してもらいたい。また、コロナの後遺症といえば、地域力に大きな影響を与えたと思う。自治会町内会の活動がだんだん縮小してしまった、委縮してしまったという実態を見てきた。今、自治会町内会の状況はどうなっているのか伺いたい。

【政木地域振興課長】コロナ禍においては、地区内での活動もかなり制限されたという実態がありましたが、徐々に地区の活動も再開されてきて、活動回数自体も少し増えてきているという認識でいます。しかし、担い手不足については、引き続き、各地域で課題だと聞いていますので、その支援は区としてしっかりと行っていく必要があると考えています。

【花上議員】冒頭でも言ったように、瀬谷区には急激に人口が増えてきた成長の歴史があったが、当時、瀬谷区に住み始めた世代から代替わりが進んできている。そして、新しく住まれた方々が自治会町内会に入らないケースが増えてきたと地域の方から聞いているが、そのような実態について区役所ではどのように受け止めているか。

【政木地域振興課長】自治会町内会加入率については、年々下がってきている状況で、新しく転入された方が入ってこないという実情があると考えています。先ほどの担い手不足ともつながる話ですが、これから持続可能な地域社会を考えると、若い方々に自治会町内会に入って活動していただくことが重要と考えています。昨年度は、事業の中で、地域に住む現役世代に自治会活動の担い手として参画してもらうということをテーマにして、取組を講じるポイントや、それを紹介するリーフレットの作成をして、自治会町内会に配布しました。「担い手になると、負担感が増える」と思われることが多いのだと思いますが、実際の自治会町内会活動ではできることをやってもらうところから入っていただくことが重要だと思いますので、リーフレットや宣伝を行って、地域の皆様と一緒に考えることに取り組んでいます。

【花上議員】自治会町内会に加入しない方が増え、活動がだんだんと縮小してしまうと、いざ地域で何か問題が起こったときに自分たちで解決

することが難しいという自治会町内会も出てくる。いつ横浜に大地震が起きるとも限らない時期に入っていると言われている中で、こういった状況を見て、地域ではいざという時に、しっかり地域が機能するのか、地域防災拠点も作られてはいるけど、本当に機能するのかという心配が語られ始めているということを重大に受け止めなくてはならない。この点についてはどのように認識しているか。

【松田総務課長】災害が起きた際、地域の助け合いは、過去の大災害を見ても非常に重要であることは明らかですので、地域にお邪魔させていただく度に、その重要性をお伝えしています。能登半島地震や南海トラフ地震臨時情報の発表もあり、地域の方々の防災に関する意識の高さを感じているので、この意識の高さを継続できるように広報をしたり、防災のイベントなどを通じて、啓発に努めていきたいと考えています。

【花上議員】地域コミュニティが崩壊するようなことはあってはならないので、区は現状をしっかりと見据えて、対応を進めてもらいたい。地域との連携と言うと、まずは区民の代表として、区連会が様々な意見を区役所に伝え、区も行政の動向を区連会を通じて地域の皆さんにお伝えしていると思う。区連会の今の状況はどうなっているか。

【政木地域振興課長】区連会については、毎年10回開催しています。区連会の中でも、「自治会町内会への加入率が下がっている」というご意見をいただいており、転入者が来た時に配布している転入者セットに、加入促進リーフレットを入れています。そのリーフレットについて、区連会の皆様との意見交換を行いながら、加入率アップなどに向けて取り組んでいます。

【花上議員】物価高の中で、生活に困っている区民の方もいると聞いています。そこで生活保護を受けている方の状況はどうなっているのか教えてほしい。

【越川生活支援課長】生活保護受給世帯については、近年では微増傾向が続いている。高齢化が進んでいる部分もありますが、瀬谷区内は公営住宅が多いので、市内外からも公営住宅に転入してきている状況があり、微増傾向が続いていると考えています。

【花上議員】犯罪が起きている実態を見ると、「生活に困って犯罪に手を染めた」というのが通り相場なので、犯罪を起こさない世の中をつくっていくという意味では、生活苦にあえいでいる人たちに対して、行政と

してしっかりと目配りしていく必要があると思う。区を挙げて生活支援に取り組んでもらっていると思うが、生活保護だけでなく、ほかにやっている取組があれば教えてほしい。

【越川生活支援課長】生活支援課では、生活困窮者自立支援制度についても所管しており、生活保護に至る前の段階で生活にお困りごとがある方を対象としています。この制度は、対象を限定していませんので、例えば、「仕事を探したい」であるとか、「収入はあるが、家計のやりくりがうまくいかなくて生活が困っている」というような方に対して、仕事探しのお手伝いや家計相談について対応しています。

【花上議員】話は変わるが、前回の会議で三ツ境駅のペデストリアンデッキの花壇整備を要望したが、対応してもらったことに感謝申し上げる。GREEN×EXPOについては、地元の瀬谷区として、しっかりと盛り上げていくことが必要で、いろんな事業を進めていると思うが、例えば、瀬谷区役所の建物に大きな垂れ幕を垂らしたらどうか。そういうものを出すのは不可能なのか。

【松田総務課長】垂れ幕については、ロータリー側に掲出設備があるので、その活用は可能です。庁舎に直接掲げるとなると、安全性の観点を検討する必要があるのと、必要な整備をする場合には予算等も必要になってくるので、その辺りを踏まえて検討させていただきたいと思います。

【花上議員】前向きに検討してほしい。GREEN×EXPOに向けた区民の関心も最近は大分高まってきたと感じている。大阪万博でも内容が分かってくれれば関心も高まると知事が発言していたが、これから具体的に、イベントの詳細や入場料などの情報が発表されてくると、GREEN×EXPOの関心もさらに盛り上がってくると思う。横浜では、横浜博覧会の成功事例もあるので、次第に盛り上がってくると考えているが、区長はその点についてどう感じているか。

【山岸区長】まさにおっしゃるとおりで、今はまだ「具体的に何をやるの？」と色々なところで聞かれている状況ですが、これから様々な情報が出てくると思うので、それらをしっかりと区民の皆様にしっかりとお伝えをして、共有しながら、盛り上げにつなげていきたいと思っています。

【花上議員】GREEN×EXPOの情報が公表されてから、これまでも交通問題

や桜の伐採問題など、ネガティブな意見も出ていたが、市は様々な手立てを講じてきてくれたと思う。市が情報をしっかりと出し始めてからは、このような意見もあまり聞かなくなってきた。だからこそ、事業内容が明らかになれば、GREEN×EXPOは人類の未来のために環境問題に取り組むものであって、ただ単なる花とみどりのフェスティバルではないということも分かってもらえるはず。そうすると、空気もどんどん変わってくるのではないかと思う。そこで、地元開催区として、今、区を挙げて、ほかの17区に比べて特別に取り組んでいこうというような具体的な計画があれば教えてほしい。

【山岸区長】まず前段についてですが、しっかりと情報を出す段階になれば、局や協会、地元である我々もしっかりと対策を考えながらやっているということが伝わる。そうやって皆様の懸念が払しょくされながら、また新しい情報が出てくるという循環になれば、より关心や興味を持って、参加してくださる人も安心して参加できる状態になっていくかなと思っています。また、後段についてですが、特にということでいうと、短いスパンでカウントダウンイベントを実施しているのは、瀬谷区だけだと思います。2年前イベントなどは全区でやっていますが、瀬谷区の場合、「777日前イベント」や「700日前イベント」も実施しました。更には、もうすぐ600日前イベントも開催します。そのように節目節目のイベントをきめ細かにきちんと打ち出していくことで、機運醸成につなげていくというのはほかの区ではない取組だと思っています。また、瀬谷フェスティバルや11月以降に実施する瀬谷駅のイルミネーションのイベント。そういう大きなイベントを通じてもGREEN×EXPOの機運醸成、周知を行っているという点が特徴的な取組だと思っています。

【花上議員】区役所が中心となって、区連会をはじめ自治会町内会、学校関係、特に横浜瀬谷高校は以前から、花を植える活動に熱心に協力してくれている。横浜隼人高校もあり、小中高、それから幼稚園や保育園、様々な組織の方々に協力してもらって、オール瀬谷区で盛り上げていくことが大事だと思う。それにはいろんな情報を地域の方々にもお知らせして盛り上げていくことが大事だと思うが、どう思うか。

【山岸区長】5月に横浜瀬谷高校の花植えイベントに参加させてもらったが、非常に多くの方が参加されていたし、横浜隼人高校のボランティア部にも協力的に取り組んでもらっています。各関係団体とお話をし

て、「協力していきたいんだ」というような想いも強く感じますので、情報も伝えながら、一緒にやれるものは一緒にやっていく必要があると思っています。連携という部分はとても重要なと思います。

【花上議員】今、話題に上がった両校は地域貢献への意識がとても高いと感じている。更にGREEN×EXPOが近づけば、保育園、幼稚園、小中学校、高校と、全てがこの盛上げに力を貸してくれるはず。区は区の役割をしっかりと果たしてもらいたい。また、瀬谷フェスティバルについて、昨年は瀬谷西高校の跡地でやったが、今年の会場について、まだ決まってないとは聞いたが、今の時点で上瀬谷の基地の跡地を会場として使える可能性があるのかどうか、今の時点で分かれば教えてほしい。

【富永副区長】上瀬谷整備事務所にも確認をしているところですが、上瀬谷については工事が佳境に入り、横浜市が発注する工事だけでなく、博覧会協会が発注する工事も同じエリア内で施工を行うと聞いています。また、旧瀬谷西高校の土地については、瀬谷中が移転することになっており、この夏以降、神奈川県による旧瀬谷西高校の校舎解体工事が行われると聞いております。一方で、瀬谷フェスティバルの準備期間を考えますと早期に会場を決定していかなければいけない時期に来ています。その中では、区役所周辺での開催ということも、様々な候補地のひとつとして検討しているところです。。

【花上議員】状況については理解したが、瀬谷区民としては、大きな会場で大勢の方々がご来場いただけるような場所で開催してもらいたいと思っているので、その点をしっかりと考慮しながら、取組を進めていただきたい。

地域交通の話で、二ツ橋北部の区画整理も進み、新たな地域交通ネットワークを考えていくべきだと思っている。地元の自治会からも新たなネットワークを考えてももらいたい、という要望書が何年も前から出ている。今、新たに相沢の踏切の横に立体化の工事を進める準備にも入っている中で、三ツ境下草柳線を利用した新たなバス路線についても当然に考えていくべきだと思う。連合自治会から要望書が出されている案件なので、当然区も承知していると思うが、そろそろ実現に向けて具体化するような計画を示してもらいたいと思っている。どのように考えているか。

【正田区政推進課長】地域からご要望をいただいているのは把握してい

ます。これからGREEN×EXPOの会場となり、テーマパークとしても、どんどんまちが変わっていくということになりますので、そこを見据えながら、交通事業者と調整等も行っていきたいと考えています。

【花上議員】だいぶ前になるが、交通事業者の方々がコミュニティバスを瀬谷区内で具体化したらどうかと提案があった。先ほど久保議員からも話があったが、新しい交通事情に対応して、コミュニティバスなどの検討も本格的に始めていかなければいけないのではないかと思うが、これについて考えがあれば伺いたい。

【正田区政推進課長】バスだけでなく、小型のコミュニティバスだとか、タクシー事業者を活用したものとか、様々な手段があると思うので、どんな手段でも皆様がより良い形で、使えるような交通面のサポートができるように支援していきたいと考えています。

【花上議員】高齢者の方々の免許返納が拡大している。市長も免許証を返納した方々に敬老バスを無料で3年間利用できるようにするとしているが、免許返納によって家に引きこもってしまうのでは、認知症になつたり、病気になつたりで医療費がかさむということにつながってしまう。これについては、しっかりと対策を講じていく必要があるが、この高齢者対策について、何か区役所として考えがあれば聞かせてほしい。

【佐藤高齢・障害支援課長】高齢者の外出という観点で言いますと、社会との関係性を維持していると健康が長続きし、認知症の発症も低くなるという調査結果があります。そのため、高齢者の方が地域活動や何らかの役割を担っていただけるような形や、集いの場というので、介護予防体操の教室等を地域の中で複数開催していて、そこに来ていただけるような支援もやっていこうと考えています。

【川口議員】旧阿久和小学校の校舎のガラスが割られたという話を聞いたが、現在校庭は開放していると思うが、普段使われていないので、やはりいたずらなども増えてくると思われる。この辺りについて、何か情報があれば教えてほしい。

【政木地域振興課長】教室のガラスが割られたという話は初めて聞きました。教育委員会のほうに確認をして、教育委員会で考えていることもあるかと思いますので、情報交換させていただければと思います。

【川口議員】当会派の横山議員から情報をいただきて、泉区でも話題に

	なっているようだ。できれば校庭だけでなく教室も使えるようになってくると雰囲気が変わってくると思うので、検討してほしい。
備 考	